

「高麗神社」
～宇都宮市に多いわけ～

宇都宮伝統文化連絡協議会顧問 柏村 祐司

宇都宮市内には、「高麗神社」と称する神社が多い。栃木県神社庁の『栃木県神社誌』によれば、栃木県内で合計九十五社の高麗神社がある。そのうち半数近くの四十五社が宇都宮市内にあり、残りの五十社も日光市今市地区や上三川町、益子町など県央部に鎮座している。

高麗神社とは如何なる神社なのか、何ゆえ県央部のみに見られるのか。ここでは、県央部に分布する理由と、分布を促した氏子たちの高麗神社に対する信仰について述べたい。

まず高麗神社の祭神についてみよう。圧倒的に多いのは高麗神である。この高麗神であるが、記紀の神話によると、「伊弉冉命は火の神阿耆志命を生んだために女陰に火傷を負い亡くなった。怒った夫の伊弉諾命は、阿耆志命を切り殺したが、その際に、剣の柄に溜まっ

た血から生まれたのが高麗神である」としている。高麗神は、水神とされるが、荒ぶる火を鎮めるために、火の神から水神が誕生したというのである。一般には祈雨、止雨、灌溉に靈験あらたかとして信仰されており、京都市の貴船神社(京都市)、奈良県吉野町の丹生川上神社は、高麗神を祭神とする神社として名高い。

次に高麗神社が鎮座する所を地形の上からみよう。鬼怒川や田川などの河川流域の沖積地、沖積地と接する台地の縁辺部、丘陵や山地に刻まれた沢沿いなどである。そしていずれも水田稲作が盛んな地域であるというところに特徴がある。

高麗神社を祭った理由について、宇都宮市下反町では田川の水害や旱魃に悩まされたので、関堀町では水害から農作物を守るために、川俣町では晴天や雨天を求めて、市貝町赤羽では祈雨、止雨、五穀豊穡を願って、

日光市水無では水不足に悩まされたので、高麗神社をそれぞれ祭ったとの伝承がある。このように高麗神社には、水害を免れるため、雨ごいのため、あるいは長雨が止むことを願ってなど水にまつわる幅広い信仰がある。

こうしてみると高麗神社が宇都宮市を中心に県央部に分布するのは、この地域の地形と無縁ではないようだ。この地域一帯は丘陵や台地、沖積地が織りなす所である。田川や鬼怒川など大小の河川の流域では、洪水の害にあいやすい。一方、田川や鬼怒川はもとより、丘陵や台地に刻まれた谷に水源をもつ河川は水源が浅く日照りが続くと涸れやすい。このように県央部は、水害が起きやすい地域であるかと思うと、雨不足や長雨に悩まされやすい地域でもあった。この地域の水田稲作農民は、こうした問題を一手に解決してくれる神様を待ち望んだ。その神様が高麗神だったという訳である。

宇都宮市東刑部・竹下町では大和丹生明神を、東木代・駒生町では、京都貴船神社の祭神をそれぞれ勧請したという。勧請には吉野や貴船に通じた修験者らの介在があったかと思われるが、靈験あらたかな神様とあらば受け入れる人は多い。かくして宇都宮を中心とする県央部の水田稲作地域に高麗神社が広まったということではなからうか。



上戸祭高尾神社
掲額に高尾とある



綿田高麗神社
高麗と刻まれている鳥居

※同神社は、高麗、高麗、高尾とさまざまな記し方がある。